商工会青年部活動報告

●ソフトボール

平成19年7月7日、グリーンベル青垣で丹波・篠山地区商工会青年部ソフトボール大会が開催されました。今年も「ドリームチーム」（選抜チーム）を立ち上げ危なげない結果で見事7連覇を達成。

続く平成19年9月24日、兵庫県商工会青年部連合会三田市の駒ケ谷運動公園でソフトボール大会が開催されました。昨年度、本大会で優勝しているため「今年も優勝しなければ」とプレッシャーを感じ8月末から毎週金曜日に仕事を終えて疲れているにもかかわらず練習をし、チームワークを高め試合に挑みました。1回戦シードで2回戦から出場、朝来町商工会青年部と対戦しました。朝来とは数年前にしまったことがあり負けています。今回は負けるわけに行かないと思って迎えた初回に先制点を挙げ優位に試合を進めていました。しかし、3回に逆転を許してしまい、点差は1点で緊迫した試合でした。そうして向かえた7回裏（最終回）ノーアウト3塁、ここで一打出れば同点のチャンスも一打が出ず初戦敗退という結果で、今大会を終えました。

残念な結果ではありましたが、今回の試合を通じ年々チームワークが良くなっていると感じました。（井尻克哉）

●デカンショ祭に出店

青年部合併後の全体事業であるデカンショ祭の売店出店を今年も行いました。休む間もなく汗だくになりながらも親睦・交流を深めることができました。お客さんが絶えることなく大盛況のうちに2日間を終えました。

また、夜の出店に先駆けて昼間にフリーマーケットを出店。炎天下・猛暑の中、真っ黒になりながらも、各支部の趣向を凝らした店に来場されたお客さんも立ち止まっていました。（市野正高）

●ウォーキングセミナーでメタボ解消！

11月21日、篠山市民センターにおいて、講師にウォーキングマイスターのサルティス池田さんを迎え、健康セミナーを開催しました。

題して「メタボリック解消！手軽でカンタン健康講座～スタイル作り、健康増進、若返りに役立つ3歩でウォーク～」

●研修旅行

以前は各支部で行っていた研修旅行。支部合同旅行は今回で2回目。総勢31名は、まずは福岡のビール工場見学へ。新鮮なビールで

最初に毎日を健康に過すために「歩く」ことが手軽で1番重要であると講義を受けました。

その後、みんなで歩き方を実践しましたが、ひざを曲げずにかかとから足をつけることや、腕は後ろに向かって振って歩くことなど、普段と全然違う歩き方を学びました。

大事なのは、常に意識することなんだと、少し出っ張ったお腹をさすりながら部員各自、肝に銘じたことでした。（奥山貴史）

●主張発表大会

平成19年4月18日に行われた、丹波篠山地区商工会青年部主張発表大会において、篠山市商工会青年部代表として出場した菟原元彦君が見事最優秀賞を受賞しました。これで、篠山市商工会青年部としては、合併前から数え8連覇という快挙達成となりました。

さらに、菟原元彦君は、同年7月10日に行われた兵庫県商工会青年部主張発表大会において、丹波篠山ブロック代表として出場し、優秀賞を受賞しました。

この大会は、日頃の商工会青年部活動を通じて得た事例を主体的に発表するもので、菟原君は「青年部活動に参加して～今こそ強いリーダーが求められる～」と題し、まちづくりは人づくりから。われわれ一人一人がそのリーダーになってやろうではないか。と力強くを発表しました。

のどを湿らし「夜の研修」へといざ出陣。上品な宴会の後はもちろん中洲の屋台でラーメンです。若干アルコールのニオイただよう一行の2日目は、唐津城→呼子のイカ→めんたいこ工場見学。ふくらんだカバンを抱え伊丹空港に降り立ちました。ラーメンもイカも本当に美味でしたが、何といっても一番の収穫は、年令・支部を超えてのざっくばらんな情報交換だったように思います。（大前裕樹）

私たち商工会青年部では、「住みたいまち・訪れたいまち丹波篠山」を目指した、丹波篠山の魅力を認識していただき、丹波篠山ブランドを確固たるものにするためのまちづくりの出発点と考え、この取り組みを行っております。

篠山市商工会青年部は、これまでに、このような取り組みを行いました!

- 6月　スローガン決定(左記ロゴ参照)
- 7月　名称変更運動新聞発表
- 8月　横断幕掲示(スローガン記載)
- 10月　「丹波篠山デカンショ物産市」セレモニー参加(東京)
- 1月　名称変更PRチラシ新聞折込&配布活動(駅・商業施設)
  名称変更運動啓発マグネット作成
  先進地視察(大津市)
- 3月　署名活動

支部活動報告

西紀支部　西紀の夏は「夏だ!わいわいフェスティバル」

開催日/平成19年7月25日　場所/ハイマート佐仲

夏休み篠山市内各地から120名もの小学生が参加した今年度の「夏だ！わいわいフェスティバル」はハイマート佐仲にて開催。受付を終え、各班10名前後の初めて会ったお友達と協力しつつ自分の手で、黒豆うどん作り、竹食器作りをしました。長短細太、十人十色、いろんなうどんがたくさん出来あがったところで、ここからがメインプログラム。前日までに青年部員が山からの竹を切り出し、割り、磨いて、組んだ全長約80メートルもある佐仲ダムの斜面を利用した大うどん流し大会!!　流れるうどんを必死で掴もうとする子、時々流れてくるトマトを待ち構えている子、ダムのそばで汗だくになってうどんを茹でる青年部員、茹でたてのうどんを流す青年部員、1番下でたくさんうどんを食べる中学生。さらに竹弁当で黒豆ごはん。大歓声と笑顔でおなかいっぱいになりました。

さらに一人一枚、灯篭の絵を描きました。後日青年部員が他の部分と完成させ、みんなが描いたこの灯篭は「にしきふるさとまつり」だけでなく、篠山の夏の風物詩「デカンショ祭」でも通りを彩り大活躍しました！また西紀中学校の有志が、前日準備、当日の班リーダーとして活躍してくれました。(高見　淳)

篠山支部　デカンショ祭・いのしし祭

◆デカンショ祭　開催日/平成19年8月15日・16日　場所/篠山城跡周辺
◆いのしし祭　開催日/平成20年1月26日　場所/篠山城跡周辺

篠山支部では、「デカンショ祭」「いのしし祭」の運営主体である実行委員会の中核として、企画から実動を担っています。

8月15・16日篠山城跡周辺において、第55回デカンショ祭が開催され、両日とも記録的な暑さとなりましたが、多くの方が来場されました。今年は第51回から連続で参加した踊り子連にデカンショ名誉連の称号とプレートが贈呈され、おなじみの競演会、ジュニア競演会ではたくさんの地元の人たちが元気よく踊りを競っていました。昨年から始まった灯り装飾会場もよりスケールアップ、イベントも充実、「ヤグラ演奏会」「商店街deナンバー55」「大餅まき大会」「フリーマーケット」「ドラマティックステージ」などどれも大盛況でした。

また、1月26日篠山城跡周辺において、第5回いのしし祭が開催され、屋台村会場では、しし汁をはじめ様々ないのしし料理に多くの方が舌鼓を打ち、話題の「丹波ーガー」も用意した1,000個があっという間に売り切れるほどの大人気でした。

祭のメインイベントである「ドドドいのしし猛レース」では、商店街のコースをいのししが駆け抜け、想像以上の迫力に大きな歓声が上がりました。さらに、「しし検定」は50名限定で開催され、いのししに関する様々な問題に参加者は頭を悩ませていました。当日は雪もちらつくあいにくの寒い一日でしたが、多くの方が来場されました。(奥山貴史)

今田支部　焼き物の里のイルミネーション・陶器まつり
～雪　花に　先んず　其の参～

◆イルミネーション　開催日/平成19年12月1日～平成20年1月31日　場所/兵庫陶芸美術館
◆陶器まつり　開催日平成19年10月20日・21日　場所/今田公民館前

12月1日、今田町にある兵庫陶芸美術館敷地内にて、三回目となるイルミネーションが灯りました。女性部の協力も得た屋台が並ぶ広場で、「おかみさんバンド」によるオカリナ演奏、青年部のハンドベルにつづき、田舎の魔術師・長澤幹雄さんのマジックショーなど夢の豪華共演!! 仕上げに「ささやま夢花火」による盛大な打ち上げ花火が、バルーンアートを抱えた子どもたちのはるか頭上の冬空を照らしました。

今回の点灯式は、音楽と笑顔、お腹も満たされ、参加者の心にも灯がともるあたたかいものとなりました。

また、2日間で14万人もの人が訪れる陶器まつりにつきたて餅・焼き餅を販売しています。焼き餅は事前に2日間集まり120kg分をもちつきから切り餅まで行います。

当日は1日90kgを腕がパンパンになりながらも限られた人数の中、段取りよく進めていきます。つきたての餅をきなこ・あんこ・おろしに事前についた餅を炭火で焼き餅にして販売、お客さんの列が途切れることなく完売です。

たくさんのお客さんと交流しながらチームワークで乗り切った打ち上げでは充実感があふれていました。(大前裕樹・市野正高)

丹南支部　青池　鯉とり大会・桜の下草刈り

◆鯉とり大会　開催日/平成19年9月30日　場所/四季の森公園　青池
◆桜の下草刈り　開催日/平成19年7月18日　場所/三国峠周辺

丹南支部の事業として、四季の森公園内「青池」の浄化と地域住民のふれあいの場を提供する目的で、青池鯉とり大会を開催しました。

ため池クリーンキャンペーンと題して、草刈、ゴミ拾いなどの青池周辺の整備作業を行い、ため池の役割や、生物についても小さな子供たちに知ってもらおうと、柏原土地改良事務所、吹土地改良区の後援を得て、ため池学習も開催することができました。

鯉とり大会当日は、あいにくの空模様で、何人の方が来てくれるか心配する声もあったのですが、午後12：00の鯉とり大会スタート前から「もう少し待ってください」とはやる気持ちで池に入ろうとする方を止めるのに気を使わなければならないほどの活気のあるものとなりました。年配の方から学生の方まで、池のぬかるみに足をとられながら鯉を追いかける姿には、池の上から見ている方からも大きな歓声があがり、皆がドロドロになりながらも笑顔に満ちた大会となりました。

また、7月には、三国峠の桜の下草刈りと周辺のゴミ拾いを行いました。作業では、桜の木に絡みついたつるを一本ずつ取り除き、空き缶や、弁当のパックなどのゴミを拾い集めました。(稲山重之・松下卓好)